

9/4(土) まじど！倫理です。今日は木の設白の女子となりませ！普通で  
ありたいです。

白題桌かあ程 いろいろです。

幸せ海ぶ子一鳥

2021.9.4~9.10

今週の

倫理

9月のテーマ | 問題意識の活用

1245号

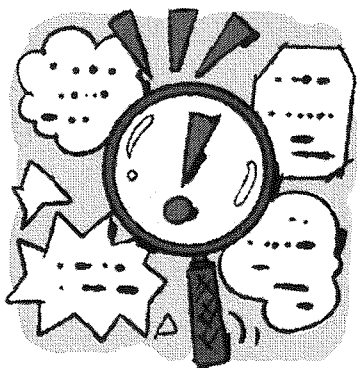
九月一日「誕生日」させてくださった感謝して

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことは掲載いたしません。

いたるところに「これが問題だ」というものがある。これが、どうにかならないか。ここがうまくいくといいのだが、あれが困る……などと、いろいろある。個人、家庭、地方自治体、国家そして世界的に、いろいろな問題がある。その問題となるポイント、これを問題点という。だが、問題のあるところに必ず活路がある。

問題があるということは、前進か、後退か、岐路に立っている状態だ。ここが、もつとうまくいくか、どうか。あそこが、解決できるか、どうか。一步、二歩と前へ進めるか、あるいははするすると後ろへ退くか。その分かれ目が問題点に立っている状態である。

一朝一夕には解決できない問題もある。長い間の努力の積み重ねによって、ようやく前進し始めるといったような事柄は多いかと思うと、問題点をしっかりと見極め、適切な手を打つことよって一挙に解決できるようなものもある。どれが解決までに時間を要し、どれが簡単に片付くか。これをあらかじめ決めてかかることは、難しい。長くかかりそうな問題が、思わぬことから一度に氷解することもある。問題のまったくない生活が、もしあるとすれば、それはまことに退屈なものである。



## 問題点はどこにあるか

丸山竹秋

う。いつまでもぬるま湯に入っているような人生では、本当の喜びはあるまい。問題があるからこそ、人生は張りきっていかれる。興味と喜びをもって処していける。だから問題があることは、ありがたいのだ。いつも前進か、後退かの線に立たされていくということは、感謝すべきなのだ。

問題意識とは答えを求め心である。答えを要求する問のことを問題と言うが、答えを求め追求することは、いたずらに他人を責めるのではなく、自分にも自然に心を向ける健全な意識と言えよう。

ただ問題意識と言ってもそれが悪い方向へ向かうのであれば、進歩にはならないのは当然だ。悪に進歩はない。盗みや殺人のやり方がますます巧妙になっても、それは進歩とは言えない。

日常の生活では、問題が解決しないのは「あなたのせいだ」とばかり言い張り、行動していると、結局「ではお前はどうかのだ」とこちらに返ってきて、問題はますます解決しにくくなるのが、関の山である。

世の中は、こちらの状態が反射反映することが多い。憎めば憎まれるし、愛すれば愛されるようになっていく。「進歩の可能性」というのは、蓋然性（実際にそうなるか、起こるかの確率）や問題意識が多いだけではいけないということをも合わせ含めたものである。同時に、問題を人のせいにはかりするような意識のもち方では進歩はないことも示している。またせつちかちでも、その可能性はない。『繁栄の法則』『選集』より